**(日本語)　論文表題**

**(日本語)　短縮表題**

または

(English) Title

(English) Running title

深層太郎1・海洋研治2・太平事務男3・Jimuko OCEAN3 (11pt)

Tarou SHINSOU, Kenji KAIYOU, Jimuo SHINSOU, and Jimuko OCEAN

1海洋深層水大学(〒○-○　○県○市○○　○-○-○)

2海洋取水研究所(〒○-○　○県○市○○　○-○-○)

3海洋深層水利用学会(〒○-○　○県○市○○　○-○-○)

**日本語　要旨**

「海洋深層水研究」は海洋深層水とその資源利用の研究及び技術開発の成果を発表する学術雑誌です．この「海洋深層水研究（Deep Ocean Water Research）投稿原稿サンプル」は論文執筆のために作成したものです．そのため，論文誌の仕上がりはこの限りではありません．このサンプルはMicrosoft Word 2019で作成しています．海洋深層水研究は，著者から提出された原稿，図・表・写真の電子情報を用いて作成することを基本とします．この投稿原稿サンプルは「投稿規程」「投稿の手引き」の内容と，原稿のレイアウトを明記した原稿執筆要領です．登載する論文の体裁を統一するため，必ず原稿執筆要領に従って執筆いただくようお願い申し上げます．要旨は和文で約400字（英文で約300語）以内．5語以内の和文と英文のキーワードをつけて下さい．また，所属機関等を忘れず記載して下さい．これで丁度400文字です．

**(日本語)キーワード**：海洋深層水，品質，サンプル，書式

## (English) Abstract

For the promotion of the effective use of deep ocean water (DOW), an untapped natural resource shared by all human beings, it is necessary to strengthen the domestic organizations in close liaison among industry, government, and academic sectors, foster the research into the applications of DOW and promote the dissemination of the fruits of the research. The promotion of research activities through international cooperation has been strongly desired at home and abroad. Particularly the prompt establishment of a domestic organization for groups and individuals to participate freely in the exchange of information about DOW has been called for. In the light of this situation, the Deep Ocean Water Applications Society (DOWAS) was established. (300 words以内)

(English) ***Key Words***：Deep Ocean Water, Quality, Sample

**図・表の枚数:** 図○○枚、表○○枚

**査読審査・編集時の連絡先**:

電話:

FAX:

E-mail address:

**本文**

**1. 緒　言**

「海洋深層水研究」は海洋深層水利用学会の論文誌として，海洋深層水とその資源利用の研究および技術開発の成果を発表する学術雑誌です．「海洋深層水研究」は，年1回以上発行し，原著論文，短報，総説，その他からなります．本誌掲載論文の著作権は海洋深層水利用学会に帰属します．論文は１篇が10印刷頁以内とし，超過した場合はページチャージを請求します．投稿は原則として海洋深層水利用学会会員に限りますが，会員以外の共著者を含むことは差し支えません．全ての論文は2人以上の査読者の審査を経て担当編集委員が採否を判断し，編集委員会が決定します．「海洋深層水研究」では，電子ファイルでの投稿を基本とすることになりました．この投稿原稿サンプルはレイアウトを明記した原稿執筆要領であり，「投稿規程」，「投稿の手引き」の内容をサンプルとして示したものです．論文集しての体裁を統一するため，必ず原稿執筆要項に従って原稿を執筆頂くようお願い致します．ご投稿の際には本サンプルを参考にして執筆して下さい．

**2. 方法**

**2.1 投稿の手順**

　投稿は以下の手順で行う．**電子ファイルでの投稿**を原則とする．

**(1) E-mailによる投稿**

投稿原稿（図表を割り付けた原稿：このサンプルが体裁となります）及び図・表・写真を委員長と編集幹事まで投稿する．

**(2) 投稿先**

編集委員長：東京大学大学院　大内一之  
E-Mail：[info@dowas.net](mailto:info@dowas.net)  
編集幹事：東京海洋大学海洋科学部　石井晴人  
E-mail：[ishii@kaiyodai.ac.jp](mailto:ishii@kaiyodai.ac.jp)

**(3) 投稿時の提出書類**

論文を投稿する場合，以下の書類を提出する．

a) 表題・短縮表題（Running title），著者名，図表枚数，研究実施機関・所属機関および所在地，査読審査・編集時の連絡先（電話，FAX，E-mail）を記載した書類（様式自由）

b) 図・表・写真の個別のファイル

（図が8個ある場合，Microsoft Wordで1ファイル8ページに，図1～図8を1図1頁ずつに貼り付けても構わない）

**(4) 受理後の提出原稿　(**投稿論文が受理された場合)

１． 担当編集員との打合せで修正された最終原稿を提出する．書式は投稿原稿と同じ，著者構成の段階での文章の大幅な修正は，特別の場合以外出来ない．

２． 原図・原表やその説明は，受理後も印刷段階で，修正を依頼することがある．

３． 原稿は，Windows，Macintosh共にMS-Wordファイルで投稿する．

４. 原稿と原図・原表と共に電子メールで提出する．（宛先は投稿規程参照）．なお，電子メールでの提出が困難な原図，原表は郵送で提出する．

**2.3 投稿論文の構成**

投稿論文は原著論文，短報，総説，その他に分類さる．この投稿論文サンプルを参考に以下の項目を記載する．

**(1) 1ページ目（複数頁でも構わない）**

以下の事項を，全て和文もしくは英文で記載する．

a) 表題と短縮表題（running title）

b) 著者名

c) 研究実施機関，所属機関および所在地

d) 和文要旨と和文キーワード

和文要旨は，論文で述べる問題提起とその解決手段・方法および得られた結果がわかるように明瞭・簡潔に**400字以内**で記述する．そして，5語以内のキーワードを記載する．

e) 英文要旨と英文キーワード

和文論文の英文要旨は必ずしも和文要旨の英訳である必要はない．論文の内容が外国人に理解できるように配慮し，**300語以内**で記述する．そして，5語以内のキーワードを記載する．

**(2) 本文**

１． A４縦置きで，余白は上下30mm，左右30mmとして，1行35～40字（全角），25行に印刷して，投稿原稿とする．

２． 図・表の挿入希望位置を**右余白に明示 (右のテキストボックスに例を示す)**する．ただし，本文に比べて図表の多い（印刷１頁あたり図１枚以上）時は，希望に添えるとは限らない．

←　図1

３． ページ番号を必ずつける．

４. 原則として，“**1. 緒言**”から始め，“**2. 方法**”，“**3. 結果**“，”**4. 考察**“，と続ける．英文も同様に“**1. Introduction**”，“**2. Methods**”，“**3. Results**”，“**4. Discussion**”，とする．研究フィールドにあわせてこの他の大見出しを加えることはいとわない．また小見出し“2-1．”などは用いない．

**(3) 謝辞（和文・英文）**

（独）日本学術振興会　科学研究費補助金，その他研究助成を受けたときは，そのことを明記する．

**(4) 文献**

投稿規程を参照．英文論文に和文の文献がある場合には原点は和文であることを断った上で，英文訳で表示する．

**(5) 図・表・写真の説明**

　和文原稿は和文もしくは英文で，英文原稿は英文で，別紙に個別に記述する．原図・原表は，後述の「図表の作成」に従って作成する．投稿時は，それらのコピーを送り，受理後に原図・原表を提出する．

**(6) 英文論文**

表題・短縮表題（Running title），著者名，図表枚数，研究実施機関・所属機関および所在地，査読審査・編集時の連絡先（電話，FAX,E-mail）を記載した書類（様式自由）を英文で記載し，別添として添付する．なお，共著者が用いている英文表示を利用するように共著者に確認する．

**(7) 用語と単位**

a) 用語

　漢字は常用漢字を使用し，学術用語の使用には文部科学省「学術用語集」の他，理化学辞典，専門分野の辞典（例：海洋大辞典）・便覧などを参考にする．

b) 単位

単位は原則としてSI単位．複合単位は以下の例のように表示する．

例：　J K-1 mol-1．

数字と単位の間は，半角あける

c) 引用

インターネット上のサイトやデータベースを引用する場合，本文中の関連箇所に引用したサイトのURLをカッコ内に記入する．（http://www.dowas.net/）

**(8) 数式**

数式は行の中央に配置し，上下に1行ずつ空けて明瞭に記載する．また，式番号を（1），（2）のように行末に記載する．本文中での式の引用はカッコ書きで，例えば「式（1）」等と表記する．

 （1）

**(9) 脚注**

　脚注は用いない．

**3.4 図・表・写真**

図・表・写真は原則として著者が作成した電子ファイルを利用する．バランスがとれ，明瞭で，文字が読みやすいように工夫する．なお，電子ファイルで投稿が出来ない場合は，A４版の台紙を使用して，そのまま版下として利用できるように黒インクで明瞭に書いたもの，投稿時及び受理後の最終原稿と同時に提出する1図1枚，1表1枚の図・表・写真にも，番号，タイトル，必要な場合は説明を付ける．以下に図表作成のキーポイントを示す．

**(1) サイズ**

図・表・写真の原図は横幅が，10cmあるいは21cmにする．原稿に貼り付ける際は，1段または2段抜きで収まるサイズにすること．印刷時には80%に縮小されるので，図・表中の文字の大きさは10ポイント以上，すなわち英子文字（a，c，e，m，o，sなど）の高さの最小値を1.5mm以上にする．上付き・下付きのある文字では，添え字が60～70％の大きさになるので，最小でも12ポイントを使用する．

**(2) 配置**

a) 原図・原表はPC上で作成する場合は特殊なソフトを用いないようにし，紙上で作成する場合は，そのまま写真製版用の原稿となるよう，A4（縦横いずれでもよい）の上質用紙に作成する．番号は「Fig. 1」「Table 5」のようにし，原則として1図1枚，1表1枚とする．特に，計測機器の記録用紙などをそのまま図化する場合には，PC上でコントラストなどを調整して明瞭にする。

b) 図・表・写真(キャプションを含む)と本文との間には，1行の余白を設ける．

c) X―軸，Y－軸の太さは0.2mm程度，図中の主な線（折れ線など）の太さは0.3～0.5mm程度が適当である．0.1mm以下の太さの線は印刷したとき見えなくなる場合がある．データポイントは，中空の（○△□◇）より（●▲■◆）のほうが見えやすい．データポイントの幅は図の幅が10cmの場合で2mm程度が適当である．

d) 図の説明文に末尾に「．」を打ち，表の説明文には「．」を打たない．

**(3) 「図」作成上の注意**

図はできるかぎり汎用性の高い形式「例えば；bmp, jpg, emf，wmf, ai, eps, tif, gif, raw」で出力する．図表の説明は和文もしくは英文で記載し，個別に提出する図表にも記載する．キャプションは図の下におく．



図1　掲載論文数の推移

**(4) 「表」作成上の注意**

左右両端の縦罫線は書かない．最上段の横罫線の太さは1.5ptとし，そのほかの罫線は0.5ptとする．また，表中の文字は，9ptの明朝体で記載する．キャプションは表の上におく．

表1　キャプションは上です

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 2009年 | 2008年 |
| ○○○○○○ | 100 | 50 |
| △△△△△ | 33 | 20 |

**(5) 写真**

スキャナを用いて電子ファイルとする．取り込み時の解像度はご自分でご確認ください．

**3.5 参考文献**

　引用した文献は文末にまとめ，最初の著者の姓のアルファベット順に並べる．

**(1) 本文中での記載方法**

本文中では深海（1996），（深海，1995；深海・浅海，1971；Fukami，1996；Fukami and Senkai，1972）のように引用する．著者が3人以上の文献は，深海ら（1970），Fukami *et al.* (1970)のようにする．

**(2) 文末での記載方法**

引用文献は，最初の著者の姓のアルファベット順に並べ，次の例にしたがってまとめて記載する．

a) 著者名の順序

著者名は和文文献の場合，連名者ともに姓名を記載する．英文文献では最初の著者の姓のみイニシアルとして，連名者はイニシアル・姓の順に記載する．

b) 論文の場合

著者名 （年号） 表題. 掲載誌名, 巻, 引用初ページ-終ページ.

中川光司・横山嘉人・中島宏・池上良成（2000） 海洋深層水のミネラル供給源としての利用. 海深研, 1, 1-11.

Lam, T. J. （1982） Applications of endocrinology to fish culture. Can. J. Fish. Aquant. Sci., 39, 111-137.

Kapraun, D. F., T. K. Hinson and A. J. Lemus (1991) Karyology and cytophotometric estimation of inter- and intraspecific nuclear DNA variation in four species of *Porphyra* (Rhodophyta). Phycologia, 30, 458-466.

Igarashi, M. (1989) Effect of oxolinic acid on fecal microflora of goldfish. Nippon Suisan Gakkaishi, 63, 345-350 (in Japanese).

c) 単行本の場合

著者名（年号）書籍の題名. 発行所, 発行地, 引用ページ.

　引用ページについて，単一ページは「p. 123」，複数の場合「pp. 15-20」のように記す．また全ページ引用の場合は「105 pp.」とする．

吉田秀樹（2000） よくわかる海洋深層水. コスモトウーワン, 東京, p. 223.

Harvey, B. J. and W. S. Hoar (1979) The theory and practice of induced breeding in fish. IDRC-TS21e, Ottawa, Ont., pp. 48-50.

Sverdrup, H. U., M. W. Johnson and R. H. Flemming (1942) The Oceans. Prentice-Hall, Englewood Cliffs, N. J., 1087 pp.

d) 分担共著者の場合

著者名（年号）表題. 書籍の題名 (編者), 発行所, 発行地, 引用ページ.

杉ノ原伸夫（1991）世界の海の水の循環. 海と地球環境 (日本海洋学会編), 東京大学出版会, 東京, pp. 62-76.

Rechards, F. A. (1965) Chapter 6, Dissolved gases other than carbon dioxide. In “Chemical Oceanography, Vol. 1.” (ed. by J. P. Riley and G. Skirrow.), Academic Press, London and New York, pp. 197-225.

**4. その他事項**

**4.1校正**

　審査の結果は編集委員より通知する．論文が受理された場合，担当編集委員との打ち合わせのうえで，掲載用の最終原稿を提出する．なお，受理および校正の段階で修正を依頼することがある．著者校正は最終原稿の版下の段階で行う．この段階での文章の大幅な修正は出来ないため，最終原稿の提出にあたっては入念な確認を行うことが必要である．

**4.2 その他の注意事項**

a) 原稿はこの投稿原稿サンプルを利用したMS-Wordファイルでの投稿が望ましい．

**4.3 別刷りとカラー印刷**

a) 別刷り

各論文の別刷り**30部は無料提供**とする．**それ以上は有料**です．要求部数を校正返却時に印刷会社に申し込む．

b) カラー印刷

カラーの図や写真の印刷は著者の実費負担とする．A4判１頁で約10万円である．

**謝　辞**

本論文は海洋深層水利用学会の論文誌である海洋深層水研究のフォーマットを統一するための書式をまとめたものである．ご協力いただいた関係者の皆様に感謝の意を表します．

**文　献**

Harvey, B. J. and W. S. Hoar (1979) The theory and practice of induced breeding in fish. IDRC-TS21e, Ottawa, Ont., pp. 48-50.

Kapraun, D. F., T. K. Hinson and A. J. Lemus (1991) Karyology and cytophotometric estimation of inter- and intraspecific nuclear DNA variation in four species of *Porphyra* (Rhodophyta). Phycologia, 30, 458-466.

Lam, T. J. （1982） Applications of endocrinology to fish culture. Can. J. Fish. Aquant. Sci., 39, 111-137.

中川光司・横山嘉人・中島宏・池上良成（2000） 海洋深層水のミネラル供給源としての利用. 海深研, 1, 1-11.

Rechards, F. A. (1965) Chapter 6, Dissolved gases other than carbon dioxide. In “Chemical Oceanography, Vol. 1.” (ed. by J. P. Riley and G. Skirrow.), Academic Press, London and New York, pp. 197-225.

Sverdrup, H. U., M. W. Johnson and R. H. Flemming (1942) The Oceans. Prentice-Hall, Englewood Cliffs, N. J., 1087 pp.

杉ノ原伸夫（1991）世界の海の水の循環. 海と地球環境 (日本海洋学会編), 東京大学出版会, 東京, pp. 62-76.

吉田秀樹（2000） よくわかる海洋深層水. コスモトウーワン, 東京, p. 223.

（2009.10.28 受付，　2009年11月1日 受理）

（2009年10月改訂）

（2021年10月改訂）